

月額4000円まで手当支給

資格情報サイトを運営する㈱パセリ(東京都千代田区、鈴木穂代表取締役、34人)は、ジムの会費・トレーニングウェアの購入費用・インフルエンザの予防接種などに掛かった費用の補填として1か月上限4000円の健康増進手当を支給し、社員健康増進対策に力を注ぐ。K-1選手から指導してもらえる法人契約も結んだ。さらに、食事に注意を払わない若手社員がいたことを理由に、バックサダを会社が購入する取組みを推進中。メンタルヘルス対策では、社内にカウンセラーを招聘して自由に面談できるようにした。仕事や私的な悩みを相談する機会を設けている。

「今年2月から社長がキックボクシングを始めて、ずいぶんスマートになった」と切り出したのは、広報室の伊藤早奈香(さなこ)さんだ。同社がK-1選手のスポンサーになったことから、選手がトレーナーを務めるジムで社員もトレーニングできるような契約を結んだ。毎週木曜日の終業時間後にレッスン時間を設け、有志が汗を流している。鈴木社長もその一人だ。伊藤さん自身も初めて格闘技を体験し、「ストレス解消になった」とメンタル面での効果をアピールする。

過去にも同様に、社員の健康増進プログラムの一環としてスポーツジムと法人契約を結んでいた時期があった。しかし、「自宅近くでトレーニングしたい」「近所に系列のジムがない」「体力的にも疲れた仕事の後でトレーニングしてから帰宅するのはきつい」

バックサダやパケット果実実用意

「積極的にトレーニングする社員が少なく、挫折した経緯があった。以降は法人契約などをせず、福利厚生として健康

weekly focus

㈱パセリ

ジム費や予防接種に

健康増進対策 K-1選手の直接指導も

り、インフルエンザの時期になると利用者が増える。食事の補助も行っている。平均年齢が30歳代半ばと若い社員が中心で、独身者も多いことから、以前は「食事にに関しては無頓着で、栄養が偏っていた(伊藤さん)」。その食生活を見兼ねた鈴木社長が業者と契約を結んだ。以後、一人前ずつバックサダやパケット果実実を月1回の頻度で配達される。受け取り後は冷蔵庫に保



息抜き以外にも用途は様ざま

増進手当を支給する方向へとシフトした。社員自身の健康に関する出費を月額上限4000円(実費の半額)を補助する制度だ。用途は健康に関するものなら何でも良い。たとえばスポーツジムの会費、ウェアやシューズの購入費、インフルエンザの予防接種など、立替伝票を切つて領収書とともに経理担当者へ渡せば、経費として月末に精算される。

月額上限以内であれば複数申請も可能だ。各自が必要なものに対して使用できるため、使い勝手が良い。現在は社員の約半数に当たる15人が常時利用してお

存在する。会社の経費として購入しているため、社員なら誰でも無料だ。昼食のプラス1・2品としてある。で席に戻ってくる社員もいる。現在はすっかり個人面談が定着しており、カウンセラーの来訪日社員に告知されると、すぐに予約埋まる。しかし、当初はカウンセリングの持つネガティブイメージから、敬遠する人も多かった。受診の敷居を下げるためのワークショップを開いている。結果、本人が面談を受ける抵抗感も、カウンセリングを受け

る同僚に対する不信感も大幅に減り、当たり前のものとして受け取られる風土ができて上がった。新入社員に對しても、「グチでも雑談でも良いので、一度は話しに行つてほしい(広報室・佐藤孝子さん)。「私もカウンセラーとクチをこぼすケースがある。ストレスを解消でき、ネガティブ思考にとられる場面が少なくなった。社内コミュニケーションを円滑にする一助になっているのは確実だ」と指

幹事となった社員は、工夫を凝らした余興を用意する。これまでに、コンピュータゲームの大会、カラオケ大会、宴会芸、合唱演奏など、様々なイベントが行われ、今では「○○さんあの曲を歌ってほしい」というリクエストさえ入るとい

社員の人気高いカウンセリング

健康増進対策は、メンタルヘルスにも及んでいる。月に1日、専門のカウンセラーを招き、希望者が1時間ほどの個人面談を受けられるようにした。

もちろん、話す内容はカウンセラー以外には分からない。面談後は清々しい顔

もうひとつ、グループ企業を含めて社員同士の交流を盛んにしているのが、カフェスペースの設置だ。写真。鈴木社長の発案で社内リフォームを行った際、受付フロアの一角に設けた。昼休みや仕事の合間の息抜きなどに使うほか、就業時間中に無料で受講できるM&A講座や英会話教室、前述のカウンセリングのワークショップなども開催している。事あるごとに社員が集まる空間になった。

喫茶スペースで社員交流活性化

まずは、グループ企業5社の全社員を対象に全額会社負担で実施する社員旅行がある。地方支社から参加

社員同士の交流が盛んになった理由は、社員旅行や会社主催のイベントだけの力ではなく、社員個々人の持つ気質もあるようだ。学生時代のコミュニケーションがそのまま会社で行われている感覚と佐藤さんは話している。